NIE実践報告

1．タイトル　携帯電話の危険性と正しい使い方

2．学校名

長岡市立中之島中学校

3．実践者名（代表者名）

安達　善行

4．学年

1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳・３６人

6．単元（本時の学習課題）名

携帯電話の危険性と正しい使い方

7．目標(狙い)

・携帯電話の利点と問題点を知り、中学生にとって携帯電話を持つことの危険性を理解する。
・情報機器を使う場合において、相手のことを思いやる気持ちや、ルール・マナーを遵守する態度を育てる。

8．評価の視点

携帯電話を持つことの危険性を理解するとともに、情報機器を使う場合における、相手のことを思いやる気持ちやルール、マナーを遵守する態度を高めることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

①　携帯電話の利点と問題点を考え、新聞記事から問題点とその後起こり得る危険性について考える。
②　新聞記事の続きを読み、感じたことや今後の自分の行動についてを考えて「携帯3か条」をまとめる。

10. 単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①　携帯電話についてのアンケート調査の結果を示すことで、自分の問題として捉えさせる。
②　新聞記事を読むことで、世の中の中高生に起こっている問題を知ると同時に、携帯電話によって予期し得ないような事件に巻き込まれる可能性があることを理解させる。
③　資料として、「親も知らないプロフ」という新聞連載記事を用意し、生徒に配布する。
④　いずれ携帯電話を持つことを想定し、そのときの自分に対するきまりごとを自分自身で考えさせる。
（留意点）
・携帯電話についてのアンケート結果を生徒に知らせ、携帯電話について考える動機付けとする。
・携帯電話の利点と問題点を考え、いずれの面も偏らないように意見を出させる。
・新聞記事の中の問題点を全員で共有し、危険性について各自、各班で考え、意見を交換させる。
・携帯電話やネットに関するトラブルが身近に起きていることを認識させ、マナーや思いやりの大切さに気付かせる。

11. 児童・生徒の反応、感想・意見

いずれ携帯電話を持つことを想定し、未来の自分への『携帯３か条』を考えさせた。生徒が考えた３か条は、「個人情報をむやみに載せない」、「悪口などのいじめにつながる書き込みをしない」、「携帯やプロフなどに依存しすぎない」などが多く書かれていた。

12. 成果と課題

「携帯電話」という身近なツールをテーマとしたことで、生徒は主体的にブログやプロフの問題点を考え、意見を交換し合っていた。『携帯３か条』についても、新聞記事を読んで感じたことをもとに自分なりに考えられていた。教材として活用した新聞記事の道徳的価値をより高めることができた。
同じ記事を使う場合でも、記事のどこに焦点を当てるのか、またどのようなテーマで授業を構成するのかなどは多様の手段が考えられる。生徒の発達段階に応じて教材化する必要がある。また、記事の焦点化の仕方しだいでは、別の教科でも生かされる教材にもなり得る。このような教材化の仕方を今後の課題とする。